さいたま市立大宮北中学校

学校だより 11 月号

令和８年１０月３０日（金）

０４８（６４１）１２１４

０４８（６４１）６６８０（さわやか相談室）

https://omiyakita-j.saitama-city.ed.jp/

学校教育目標

『人間性豊かな
実践力のある生徒』

◆たしかな学力
◆ゆたかな心情
◆たくましい身体

昨日こそ 早苗とりしか いつの間に 稲葉そよぎて 秋風の吹く

『古今和歌集』 詠み人知らず

校長　廣江　剛



「田植えをしたのが昨日のことのように思われるのに、気が付けば稲は大きく成長し、その葉を秋風にそよがせている」実りの秋を迎え、学校もまた、生徒たちの成長が実を結ぶ季節となりました。１０月１７日（土）には、地域の避難所運営訓練が本校体育館を会場に行われ、今年は４４名の生徒が自主的にボランティアとして参加しました。自治会の方々の指示のもと、生徒たちは仮設トイレの組立てや、介助が必要な方の移動補助などを行いました。きびきびと行動する北中生の姿に、参加された地域の方々からは「頼もしかった」「本当に助かった」といった温かいお言葉を数多くいただきました。北中生は、日頃から地域の皆様に様々な面で支えていただいています。その一方で、私はこれまで折に触れ「いざという時、中学生はお客様ではなく地域を支える力になれ」と話してきました。今回、生徒たちが自ら進んで地域のために行動する姿を目の当たりにし、大変嬉しく感じました。

また、１０月２４日（土）に開催された北中祭（合唱祭）には、保護者の皆様をはじめ、地元議員の先生、学校運営協議会委員の皆様、地域の皆様、大宮北小学校の佐藤校長先生、さらには近隣校のＰＴＡの皆様など、多くの方々に御来場いただきました。各クラス、各学年それぞれの特色が歌声に表れ、合唱を創り上げるまでの努力や葛藤、そして仲間との絆が伝わってくる発表でした。中でも圧巻だったのは、３年生の最後の合唱祭にかける思いです。クラスの一体感、圧倒的な声量と表現力、そして仲間と共に音楽を創り上げようとする真摯な姿勢。その全てにおいて、最上級生としての誇りを感じました。会場にいた誰もが「さすが３年生」「３年生はすごい」と感じたことと思います。私が好きな後期ロマン派を代表するオーストリアの作曲家、グスタフ・マーラーは、次のような言葉を残したといわれています。「伝統とは、灰を守ることではなく、火を伝えることである」伝統とは、単に昔から続く形を守ることではなく、先人たちが抱いてきた情熱や志を受け継ぎ、それをさらに発展させながら次の世代へとつないでいくことです。３年生の合唱は、まさに「火」を感じさせる合唱でした。後輩たちに「来年はこうなりたい」と思わせる姿を、見事に示してくれました。「合唱の北中」と呼ばれる本校ですが、このように先輩たちが範を示し、その思いが後輩へと受け継がれていくことで、よき伝統は守られ、育まれていくのだと改めて実感しました。素晴らしい姿を見せくれた皆さんに、心から感謝したいと思います。

さらに本校では、この後も学校と地域が連携する様々な活動が続きます。１１月２日（月）からは、保護者並びに地域の皆様の御協力のもと、ＰＴＡ主催による学校周辺道路の落ち葉清掃が始まります。生徒たちも同じ時期から、昼休みを利用して校内の落ち葉清掃に取り組みます。学校東側の大木については、強風による枝折れの危険性が高まったため、６月に大規模な剪定を実施しました。そのため、今年の落ち葉は例年より少なくなることが予想されますが、毎年、保護者や地域の皆様が御多用の中、進んで御協力くださっていることに心から感謝しております。また、１１月１５日（日）には青少年育成会による「レッツ・ジョイン！クリーン活動」が開催され、１２月３日（木）には大宮北小学校との合同の大宮公園清掃活動が予定されています。そして締めくくりとなるのが、１２月４日（金）に実施する本校の奉仕活動です。短期間にこれほど多くの清掃活動に取り組む学校は、多くはないかもしれません。しかし、これらの活動は、氷川の杜の自然の恵みに対する恩返しであり、地域の皆様や小学校との交流を深める貴重な機会でもあります。実りの秋を迎えた今、生徒たちは様々な経験を通して確かな成長を遂げています。地域に支えられながら学び、その力を今度は地域へ還元できる人へと育ちつつある姿を大変頼もしく感じています。これからも北中生が地域の一員として誇りと責任をもち、さらなる成長を重ねていくことを期待しています。